社明 みやぎの

（社会を明るくする運動宮城野区推進委員会）

会報 第25号
令和5年1月1日
発行責任者
社会を明るくする運動
宮城野区推進委員会
委員長 小松 啓祐
事務局：宮城野区
保健福祉センター
家庭健康課

社明運動に理解と協力を

社明宮城野区推進委員会
委員長　小松　啓祐

あけましておめでとうございます。

宮城野区内の皆様には、平素より「社会を明るくする運動」にご協力を賜り心から感謝申し上げます。

コロナ禍の制約を受けながらも、毎年七月の強調月間を中心に、区内八つの地域で、推進委員の皆様がそれぞれ独自の啓発広報活動を続けています。

一昨年には全国の小学生、中学生を対象にした『社会を明るくする運動作文コンテスト』において、区内の中学生が県内で初めて最優秀賞である法務大臣賞に選ばれました。地域での地道な活動によって、運動の趣旨が少しずつでも確実に浸透していることを実感しました。

コロナ禍ということも影響しているのか、犯罪件数の減少に反して再犯率が増加傾向とのことです。誰もが生きづらさを抱えながら生きていかなければならない現代です。だからこそ、支え合いの社会を築いていくことが必要ではないでしょうか。

「社会を明るくする運動」の趣旨と、立ち直りを目指しているひとたちへのご理解を、よろしくお願い申し上げます。

「社会を明るくする運動」によせて

宮城野区長　武山　広美

新年あけましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症の影響により日頃の活動に様々な制限がある中で、各地域で犯罪や非行のない明るい社会の実現に向けてご尽力くださっている『社会を明るくする運動宮城野区推進委員会』の皆様に、改めて敬意を表しますと共に深く感謝申し上げます。

昨年十月には、三年ぶりに開催された『みやぎの・まつり』での広報活動にご一緒させて頂きましたが、当日の晴れ渡った空と同じ鮮やかな青い法被を着て『社明運動』を笑顔で呼び掛ける皆様の姿がとても印象的でした。

近年子供たちを取り巻く環境が複雑化し、デジタル化により利便性が増す一方で、悩みや孤独感が見えにくくなっている側面もあります。こうした時代にあってこそ、社明運動の地道な活動の一つひとつが、子供たちの自分を大切にする心、人を思いやる心を育て、犯罪や非行のない明るい社会の実現に向けた土壌となります。宮城野区としましても、関係機関や地域の皆様と連携し、誰もが安心して暮らせるまちづくりに向け職員一丸となって努めてまいりますので、今後ともご協力賜わりますようお願い申し上げます。

社明運動

令和4年度 一年間のあゆみ

5月　宮城野区推進委員会協議会
6月　宮城野区推進委員会役員会
　　宮城野区長に内閣総理大臣メッセージ伝達
7月　『社会を明るくする運動強調月間』
　　社明フェスティバル・みやぎ（規模縮小のため不参加）
　　仙台市青少年健全育成講演会
　　教育機関連携事業として岩切小学校にて啓発物品の配布及び社明書籍の朗読
　　開校一五〇周年記念に合わせたひまわりの種の寄贈（岩切地区）
　　原町小学校・宮城野中学校にて講話及び標語コンクール表彰（原町地区）
　　楽天生命パーク正面玄関前にて街頭啓発活動（榴岡地区）
　　宮城野小学校・東宮城野小学校にて啓発物品及びチラシによる啓発活動（宮城野地区）
8月　榴ヶ岡市民センターにて特殊詐欺に関する防犯研修会（榴岡地区）
　　クリーン大作戦IN岩切にて啓発活動（雨天中止 岩切地区）
10月　宮城野区民まつりにて啓発活動
　　鶴ケ谷市民センター祭りにて啓発物品及びチラシによる啓発活動（鶴ケ谷地区）
11月　『全国青少年健全育成強化月間』
　　仙台市児童・青少年健全育成大会
　　東仙台地区小中学校にて啓発物品及びチラシによる啓発活動（東仙台地区）
　　幸町市民センター祭りにて啓発物品及びチラシによる啓発活動（幸町地区）
　　宮城野コミュニティセンターにて特殊詐欺に関する防犯講話（宮城野地区）
12月　宮城野区青少年健全育成講演会（予定）
2月

“社会を明るくする運動”って何？

すべての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪のない地域社会を築こうとする全国的な運動です。

地域のつながり

仙台市立東仙台中学校
二年　山本（やまもと）　栞加（しおか）

私たち東仙台中学校は、地域の方々とのつながりを大切にしています。東仙中スーパーアルカスでのボランティア活動の中で学校周辺のごみ拾いや小中合同挨拶運動などを行っています。

小中合同挨拶運動では、東仙台中学校・東仙台小学校・新田小学校の三校が一緒になって挨拶運動をします。今年度は「smile―みんなにしあわせなあいさつを―」というスローガンのもと、一人一人が積極的に挨拶をしました。朝早くから集まって行ったため、はじめはあまり笑顔で挨拶はできませんでしたが、たくさんの地域の方が笑顔で返してくださるので、いつの間にか笑顔で挨拶ができるようになっていました。そして私はたった一言の挨拶でも元気になる人がいることを改めて実感することができました。

挨拶はコミュニケーションの第一歩です。挨拶をすることで地域の方々と親しくなり、人と人とのつながりができます。私たち東仙台中学校はこれからも挨拶を通してつながりを作っていきたいと思います。

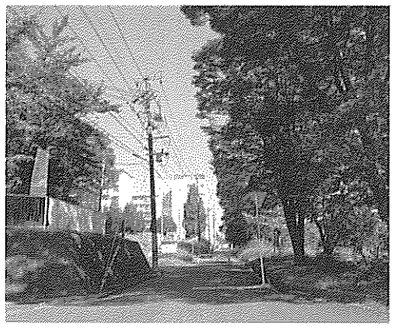
大好きな通学路と鶴ケ谷クリーンプロジェクト

仙台市立鶴ケ谷東小学校
六年　永野（ながの）　蒼太（そうた）

僕は、通学路でお気に入りの場所があります。学校を出て交差点を曲がり、オープン病院に向かう道です。木がたくさん生えているので、夏は日陰になって気持ちがいいです。秋には、トンボがたくさんいて、帰る途中にトンボを捕まえたりもしました。よく一緒に下校している友達がいて、途中で分かれる時に、明るい声で「じゃあな！」や「また明日！」などと言ってくれるので、毎日とても嬉しいです。また、通り掛かりのおばあさんに、「いってらっしゃい」や「おかえり」などと言われることもあり、心が温かくなりました。

十一月十日に通学路や学校の周りをきれいにする『鶴ケ谷クリーンプロジェクト』に参加しました。中学生や地域の人と協力して、歩道の落ち葉などを集めるイベントです。僕は、アルミの熊手を使って落ち葉を集めました。約三袋パンパンになるくらい落ち葉を集めることができました。活動が終わると、見違えるくらいに道がきれいになりました。この落ち葉は校舎の裏で、「腐葉土」に生まれ変わります。

学校や地域のみんなで、これからも大好きな鶴ケ谷の街をきれいに保っていきたいです。



受賞おめでとうございます

○第七十二回仙台市推進委員会民間協力功労表彰者

佐藤　輝子　様（幸町地区）
相原　八重子　様（幸町地区）

私たちが担当しました

▼岩切地区　菅野　澄枝
▼幸町地区　佐々木貞美子
▼榴岡地区　鈴木　良子
▼宮城野地区　櫻澤　洋美
▼東仙台地区　米山　裕美
▼原町地区　千葉　澄子
▼高砂地区　木下るり子
▼鶴ケ谷地区　小川　秀子

編集後記

令和二年春に始まった『新型コロナ感染症』の波が、何度も、何度も押し寄せ、なかなか収束の兆しが見えてきません。

コロナ禍、〝社会を明るくする運動〟の活動は、各地域の方々の知恵と行動力で絶やさず発展をしてきました。

世界情勢が厳しさを増す昨今ですが、これからも、私達の生活している宮城野区から希望ある・平和な・明るい社会作りを発信していきたいと思います。

（社明原町地区推進委員会委員　千葉澄子）

再生紙を使用しています。

「小さなともしび社明岩切」

社明岩切地区推進委員会委員
岩切地区主任児童委員　育村みどり

夏休み明け、笑顔で登校する岩切小学校の子どもたちを迎えたのは一〇〇〇本を超える満開のひまわり。これは、七月に創立一五〇周年を迎えた岩切小学校へ連携事業の一環として、社明のシンボルマークでもある「ひまわり」にちなみ、社明岩切地区がその種を寄贈させて頂き、子ども達一人ひとりが大切に植えたものです。

また、令和三年度には「子どもの読書活動の推進に関する法律」施行二十周年となり、岩切小学校でも今年度は子どもの読書活動の推進に力を入れ、本が身近になるようにと私たちも所属している地域のグループ「ストールさん」が月に一度読み聞かせをしています。

社明岩切も七月には、地区委員長とともに小学校を訪問。校内放送を使い全校児童に、絵本「コウくんときいろいはね」の朗読。社明啓発物品を配布し、「一緒に明るい社会を作っていきましょう」とメッセージを送りました。

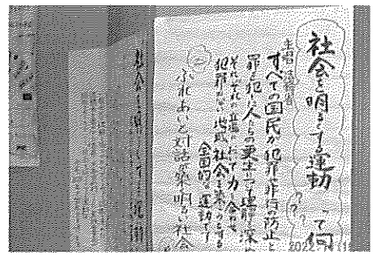
「コロナ禍」ということで色々な活動に制限がかけられてきましたが、その中にあっても できることは必ずあるはずです。微力ではありますが、どんな小さなことであっても一人ひとりに寄り添い、いつか誰かの小さなともしびになれるようなやさしい活動を心がけていきます。

自分にできること

社明幸町地区推進委員会
委員長　井上　範一

「社会を明るくする運動」の趣旨は「犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ」となっており深遠な思いがします。地域で具体的に推進することに今日まで悩み続けてきました。そんな時、ヒントを与えてくれたのが、令和三年度〝社会を明るくする運動作文コンテスト〟で法務大臣賞（最優秀賞）に輝いた、地元幸町中学校三年生の鈴木心晴さんの作文でした。

〝：犯罪は決して許されることではないが、生まれながらの犯罪者はいないのだ。罪を犯した彼らの多くが社会の中で居場所を無くし、疎外感を感じ、追い詰められた結果だとしたら：孤独にさせない、つながりのある社会を作れたら犯罪や非行の防止につながるかもしれない。：そのために私達にできることの一つが「挨拶」ではないだろうか、「挨拶」は「あなたを認めます」「あなたを尊敬します」というメッセージになると思う。小さな心掛けが、多くの人と人のつながりの実感となったら嬉しい〟というような内容でした。



社明運動を通じて

榴岡地区民生委員児童委員協議会
会長　石田　恵子

私たち民生委員は、社明運動榴岡地区推進委員会の活動委員として、明るい地域社会づくりに取り組んでいます。

社明運動強調月間の七月八日に、楽天生命パーク前広場で、PRグッズを配布しました。

「社会を明るくする運動って何ですか」と質問されることもあり、市民への地道な広報活動の大切さを実感しました。また、例年開催されていた榴岡小学校吹奏楽団による社明コンサートは、コロナ感染防止対策のため残念でしたが、今年も中止になりました。

八月には、社明との共催事業として、仙台東警察署生活安全課の方を講師に招き、「特殊詐欺における被害状況と対策」についての研修会を実施しました。詐欺の被害は宮城県でも、年々増えているという現状を知り、民生委員として安心な社会づくりのため、日頃の活動を通じて、声掛けや見守りの大切さを再確認しました。

コロナ禍によるこの三年間で、私たちの生活や意識は大きく変化し、人と人とのつながりを隔てる状況がもたらされました。しかし、一人ひとりの社会的距離があっても、しっかりとつながっていくことで、さらに明るく住みよい社会になるのではないでしょうか。

「優しさから逃げないで　やれることから」

社明運動宮城野地区推進委員会
委員長　斎藤　秀一

最近、夜回り先生で有名な水谷修さんの講演を聞く機会があった。水谷先生の出発点は、三十年前、生徒数八百名、全国最大の公立夜間定時制高校に教師として勤務した頃であった。当時は全国各地で中学・高校が荒れていた。水谷さんは深夜、駅周辺等に屯（たむろ）する若者に粘り強く対話を重ねたという。活動は要請に応じて全国を飛び回った。病んでいる多くの若者を対話で地道に救った。水谷さんが強調することは「学校全体、街じゅうが、優しさで満ちあふれたら、どれだけの子供たちが救われるか」と訴える。

まさに「社会を明るくする運動」の原点であると思う。過去を振り返ると、周りの大人がそうであったように優しい言葉より厳しい言葉をかけることが多かった。現代は経済的な停滞で貧困世帯も増えている。さらにコロナ禍の影響で不況感が広がり、拍車がかかった。世の中のイライラが大人社会から一番弱い子供たちまで追い詰めていないか。子供たち同士、親しい友人にイライラをぶつけていないか。いじめ・不登校・引きこもり優しい子供たちは生きづらさの中、心を閉ざしていないか。「良くやったな」「大変だったな」「いいんだよ」と優しい言葉が周囲に満ちあふれるようにやれることから始めたい。

ひまわり

児童館が果たせること

田子児童館
館長　熊谷　敏

「ただいま。」元気な子供たちの声。

「おかえりなさい。」

出迎える児童館職員の明るい声。

普段繰り返されている当たり前の光景ですが、ここに児童館が果たすべき大きな役割が見えてきます。子供たちが過ごせる場所、居場所となる児童館です。遊びを通した友達との関わり合いからの学びこそが、現代の子供たちに大切ではないでしょうか。

子供たちが、楽しく遊び、互いに認め励まし合える、そんな場所に児童館が結びついていけたならば幸いです。